

感染症ニュース

No.245 2025/09/26

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

感染者数が増加している。国内では、5月ごろから、オミクロン株から変異した NB.1.8.1 が急速に広がっている。激しい喉の痛みが特徴で、締め切った部屋でクーラーをかけ続けて空気が乾燥し、防御力が低下した喉にウイルスが付着して発症すると考えられる。以前に比べると症状が軽くなり、受診せず行動し続けるため、流行が拡大しやすい。とはいえ高齢者は重症化しやすく、コロナによる入院者数は増加している。今後も高齢者の重症化予防のために、新しい流行株に対応したワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続が必要で、普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面ではマスクを着け、よく換気することが大切である。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多く、コロナ明けから高水準で流行が続いている。再感染や再発例も多い。経口抗生剤が有効だが、症状が治まっても10日前後服用を続けないと腎炎などの合併症を併発する。

感染性胃腸炎

これからの季節はノロウイルスなどによるウイルス性胃腸炎に要注意。石鹸による手洗いを徹底する。

ヘルパンギーナ

夏に多い感染症で、主に幼児や小学校低学年の児童の口の中に水疱ができ、痛みのために飲食ができなくなって脱水症になりやすい。時に、髄膜炎や脳炎を合併することもある。病原体となるウイルスは何種類もある。

RSウイルス感染症

夏の終わりから春先まで流行が続く。夜間に激しくなる乾いた咳が特徴で、生後数か月までの乳児が感染すると重症となり、呼吸困難に陥って死に至ることもある。高齢者も感染すると重症化しやすい。特効薬は無い。